令和8年８月12日・vol.2
能登地域トキ放鳥受入推進協議会

のとっきー通信 ～トキの観察ノート～

羽咋市でのハードリリース方式の放鳥から早２か月半、ソフトリリース方式による放鳥から２か月がたちました。放鳥直後は、頻繁に長い距離を移動する個体もいましたが、最近は、同じ場所で過ごす個体が増えてきました。
この夏の猛暑も、なんとか乗り切ってほしいと願うばかりです。

それでは、７月のモニタリング調査の結果の一部をご紹介します。６月時点ではバラバラに暮らしていたトキたちですが、一部で、２、３羽の個体が行動を共にする様子も見られるようになってきました。

そのうち、かほく市のNo.569（2歳・オス）、No.573（2歳・オス）、No.584（1歳・メス）は普段から同じ場所で暮らしています（写真①）。
また、羽咋市のNo.577（1歳・メス）とNo.579（1歳・メス）の2羽は、一緒にねぐらから出てきますが、田んぼに降りると、少し離れて餌を食べたり、たまに合流して、一緒に過ごしたりしているようです（写真②）。

写真① かほく市の3羽のトキ（No.573 569 584）

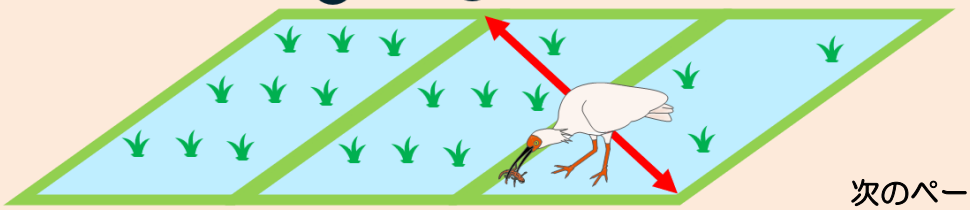
写真② 羽咋市の2羽のトキ（No.577 579）

これから、秋の放鳥も中能登町で実施予定ですが、羽咋市で放鳥した個体とも交流し、仲良く過ごしてほしいですね。

ところで、モニタリング調査で撮影した写真は、まるでトキに近づいて写真を撮影しているかのように見えますが、実は、およそ１５０メートル以上離れた車の中などから、望遠レンズを使って撮影しています。

のとっきーからのお願い
トキを見かけたら、ちょっと遠くから、そっと観察してね！

トキの観察は
150m 以上 距離をとる
目安は田んぼ1～2枚程度

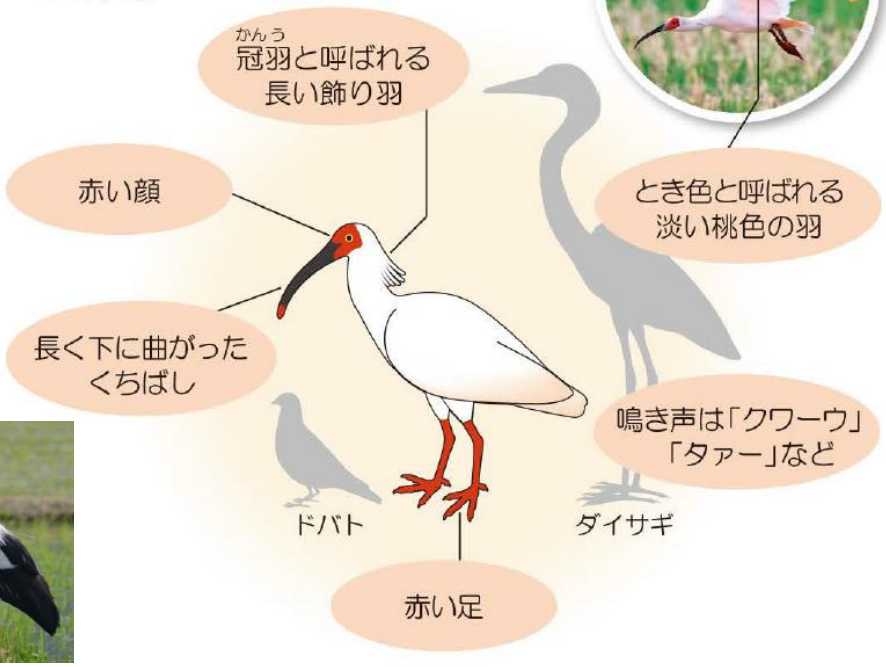


トキがピンと首を伸ばしたら警戒している合図だよ！

次のページにつづくよ！

トキの見分け方を教えます！

■分類　ペリカン目トキ科
■学名　*Nipponia nippon*
■特徴



目撃情報
入力フォーム
はこちら！

コウノトリ（ダイサギよりさらに大きい）

放鳥個体には、羽のマーカーや足環（ナンバーリングやカラーリング）がついていて、数字や色の組み合わせで個体を見分けることができます。

第１回放鳥（羽咋市）の放鳥個体の識別表はこちら →

これからも、「のとっきー通信」を定期的に発行し、多くの個体が能登地域に定着することを期待しながら、その様子を見守るとともに、県内の野生下で暮らすトキの姿をわかりやすくお伝えしていきます。お楽しみに！

もしもトキを見かけたら、観察マナーを守りながら、やさしく静かに見守りましょう。

観察マナー
はこちら！